

仙台高専なとりライブラリーカフェの検討

岡崎久美子^{*1}, 濱西 伸治^{*2}, 野角 光治^{*1}, 柳生 穂高^{*3}, 吉野 裕貴^{*4},
荒 孝二^{*5}, 坂本 香代^{*5}, 佐々木敦子^{*5}, 遊佐 梨江^{*5}

Review of Library Café Implementation at the College Library of NIT Sendai, Natori

Kumiko OKAZAKI, Shinji HAMANISHI, Mitsuharu NOGAKU, Hotaka YAGYU,
Yuki YOSHINO, Koji ARA, Kayo SAKAMOTO, Atsuko SASAKI, and Rie YUSA

This paper presents an explanation of the implementation of the third and fourth Sendai Kosen Natori Library Cafés (Library Cafés at Natori campus library of National Institute of Technology, Sendai College). The meetings, launched in 2016, were conducted on October 28–29, 2017. We would like to review some new ideas for the present program.

KEYWORDS: book introduction, community, interactive lecture, Kagakudo 100 books (100 science books)

1. 本論の趣旨

仙台高等専門学校（以下、仙台高専）名取キャンパス図書館は平成29年度第1回および第2回仙台高専なとりライブラリーカフェ（以下、ライブラリーカフェ）を開催した。これは前年度に図書館が新規に立ち上げた行事を継続発展させる形で実施したものであり、通算では第3回および第4回の位置づけとなる。本論では平成29年度の取組について検討する。

2. ライブラリーカフェの実施状況

2. 1 平成28年度における新規行事の開始

本行事の初の開催は平成28年度である。仙台高専

名取キャンパス図書館は、学生・教職員、および地域の市民を主な対象としてライブラリーカフェを開催した。高専祭第1日目の10月29日（土）に第1回を、第2日目の10月30日（日）に第2回を、図書館を会場として実施し、約70名の参加を得た。参加者アンケートの結果は岡崎他（2017）¹⁾に示した。

2. 2 平成29年度の実施状況

平成29年度は、全2回を、前年度の振り返りをもとに改善を加えて実施した。実施概要、当日の展示物、配付物、会場の様子、関連行事・サービス等を順に示す。

まず、各回の実施概要は以下のとおりである。

平成29年度 第1回 仙台高専なとりライブラリーカフェ（通算第3回）
日時：平成29年10月28日（土）（仙台高専 高専祭

*1 総合工学科 N1 ユニット (N1 Unit, Dept. of General Engineering)

*2 総合工学科 N3 ユニット (N3 Unit, Dept. of General Engineering)

*3 総合工学科 N2 ユニット (N2 Unit, Dept. of General Engineering)

*4 総合工学科 N4 ユニット (N4 Unit, Dept. of General Engineering)

*5 総務課 (General Affairs Division)

岡崎久美子, 濱西 伸治, 野角 光治, 柳生 穂高, 吉野 裕貴,
荒 孝二, 坂本 香代, 佐々木敦子, 遊佐 梨江

第 1 日目) 11:00~12:00 (講演, 質疑等を含む)

場所: 仙台大専名取キャンパス図書館 1 階グループ学習エリア

講師: 永弘進一郎先生 (仙台大専総合工学科 N3 ユニ
ット, 研究分野は流体力学・非線形動力学)

演題: 毒書のすすめ

平成29年度 第2回 仙台大専なとりライブラリーカ
フェ (通算第4回)

日時: 平成29年10月29日(日) (仙台大専 高専祭
第2日目) 11:00~12:00 (講演, 質疑等を含む)

場所: 仙台大専名取キャンパス図書館 1 階グループ
学習エリア

講師: 熊谷 進先生 (仙台大専総合工学科 N3 ユニ
ット, 研究分野は構造材料の破壊と変形)

演題: 触れて知る材料と社会の歴史

会場には, ライブラリーカフェ特設コーナーやそ
の他企画展示コーナーを設け, 来館者に楽しんでも
らえるよう工夫を施した (本稿2. 3. 2参照)。

次に, 当日の参加者への配付物を以下に示す。

- 1) 「仙台大専なとりライブラリーカフェ 概要」
- 2) 「平成29年度仙台大専なとりライブラリーカ
フェ アンケート」(記入用バインダーと鉛筆を添え
ている)
- 3) 「仙台大専名取キャンパス図書館利用案内」
- 4) お茶のペットボトル
- 5) クイズ回答提示用カード (赤・黄・青) (第1日
目)
- 6) 資料持ち帰り用封筒
- 7) 『科学道100冊:「知りたい!」が未来をつくる』
(ブックレット。希望者)
- 8) 名取市図書館関係の資料 (希望者)

参加者は約50名であった。ライブラリーカフェは
和やかな雰囲気で行われ, 参加者は受け取った飲み
物を飲むなどして^{注1)} 講話を楽しんでいるようであ
った。



図1 ライブラリーカフェの様子

ライブラリーカフェの当日に名取キャンパス図書
館が実施したその他の行事やサービスは以下のとお
りである。

- 1) 読書コンクール表彰式
第2回ライブラリーカフェの終了後に同会場にお
いて実施した (本稿2. 3. 3参照)。
- 2) 図書館ツアー
第1日目ライブラリーカフェの終了後と第2日目
表彰式の終了後に, 希望者を対象として図書館の
1階 (閉架書庫を含む) と2階を案内した。
- 3) 古本市
両日とも館内で古本市を開催し, 今年度の廃棄図
書を希望者に譲渡した。
- 4) 図書館公開
両日とも図書館公開日と位置づけた。入退館管理
システムを調整し, 学外からの来館者も図書館の
全域を閲覧や休憩のために自由に利用できる態勢
をとった。学外からの来館者にも図書貸出のサー
ビスを行った。

2. 3 平成29年度の新たな取組

本項では, ライブラリーカフェに関連する取組の
うち, 特に平成29年度に新規に実施した項目を扱う。
すなわち講話に参加できるしくみの工夫 (2. 3.
1), 企画展示の充実 (2. 3. 2), 読書コンク
ール表彰式の開催と作品の展示 (2. 3. 3), 地元中
学校と本校保護者への案内 (2. 3. 4) である。

2. 3. 1 講話に参加できるしくみの工夫

今年度は, 会場に和やかな雰囲気を醸成し, 参加
者が講師の話に参加できる形を取り入れることに配

慮した。前年度に実施したアンケートの意見等を参考にした。準備の段階において、講師の意向と図書委員会の意向が一致し、各講師の尽力により実施できた。

一例は、講師が話の途中段階に数回のクイズタイムを設けたことである。参加者にはあらかじめ赤・青・黄の3色のカードを配付しておき、回答時に提示してもらった。

また、参加者が多様な資料等を手にとって見る機会を作った。話の中で言及される金属試料や製品をフロアの中央に配置しておき、参加者が話を聞きながら随時手にとって見ることができるようにし、また、それらを参加者に回覧した。現在は絶版となっている貴重な蔵書も披露された。

進行においても、参加者の発言の時間を昨年度より多く確保し、参加者が質問やコメントを述べやすくなるよう計画した。講師と参加者がひとつの場に集う対面型のライブラリーカフェならではの楽しさを体験してもらうことができたと考える。

2. 3. 2 企画展示の充実：「科学道 100 冊」他

昨年度と同様に、事前広報の一環として、また当日および開催後の活用のために、図書館内にライブラリーカフェ特設コーナーを設けたが、平成 29 年度は、ライブラリーカフェと連動させる形で2つの企画コーナーを新たに設置した。「科学道 100 冊」展示コーナーと読書コンクールコーナーである。本項では、ライブラリーカフェ特設コーナーを概観した後、「科学道 100 冊」展示コーナーについて述べる。読書コンクールコーナーは次項 2. 3. 3 で言及することとする。

2. 3. 2. 1 ライブラリーカフェ特設コーナー

ライブラリーカフェ特設コーナーは、実施の1か月ほど前から、会場となる図書館1階に設け、講師がライブラリーカフェで紹介する予定の本やライブラリーカフェ案内ポスター、関連資料等を展示し、ちらしを置いた。開催後は、当日配付資料やライブラリーカフェを記録した DVD を追加し、展示と貸出を行っている。講師が一連の流れの中で紹介した本の全体像が把握しやすいように、可能な範囲で表紙が見えるよう展示し、本が貸し出された場合には、その本の展示位置に「貸出中」と印字された表紙のコピーが現れるようにしている。本の貸出状況は良

好であり、DVD は館内での視聴に利用されている。

2. 3. 2. 2 「科学道 100 冊」展示コーナーの概要

「科学道 100 冊」展示コーナーは、「科学道 100 冊」プロジェクトで紹介されている 100 冊の本を取り揃えたコーナーのことを指す。「科学道 100 冊」プロジェクトとは、国立研究開発法人理化学研究所と株式会社編集工学研究所によって組織された科学道 100 冊委員会が平成 29 年より実施しているものである。

「科学道 100 冊」の概要は以下のとおりである。後に提供を受けたブックレット『科学道 100 冊：「知りたい！」が未来をつくる』²⁾には以下の解説がある。「科学道 100 冊は書籍を通じて科学者の生き方・考え方や科学のおもしろさ・素晴らしさを届ける事業です。未知に挑戦しながら未来を切り開いていく科学者の姿勢や方法に着目し、すべての人の生きるヒントになる本との出会いを目指しています。」(p. 48)と述べられている。100 冊の本は次の 6 つステージに分けて紹介されている。すなわち「はじまりは疑問」「果てしない収集」「導かれたルール」「めくるめく失敗」「まるで魔法」「未来のはじまり」(pp. 4-39)である。「科学者の部屋」というタイトルのインタビューも実施されている (pp. 41-47)。

本校図書館はプロジェクトで紹介されている 100 冊の本を取り揃えて展示することとし、このプロジェクトの下に全国規模で展開されているフェアに参加する形をとった^{注2)}。「科学道 100 冊」プロジェクトは、専門家と一般の人々が科学技術のおもしろさを共有することを意図している点においてライブラリーカフェと趣旨が重なり、当該図書の展示はライブラリーカフェと併せて行うのにふさわしいと判断した。ライブラリーカフェと共通点のある企画であれば、ライブラリーカフェに参加するため来館する人々の関心に沿う可能性が高いと想定された。

2. 3. 2. 3 「科学道 100 冊」導入の背景

本図書館がこの展示を実施した背景には、図書館として、ライブラリーカフェを開催し参加者を迎えるにあたり、イベント本体の充実とともに、来館者が読んでみたいと思う本と出会える環境をさらに充実させたいという意図があった。また、ライブラリーカフェをイベントに終わらせることなく、通常時の図書館利用につなげるために、ライブラリーカフェと関連する企画を既存の図書館企画展示に追加提

案したいという考えもあった。

検討の段階で利用したのはプロジェクトのウェブ
サイトである。サイトには、専門家でなくても楽し
める本が 100 冊、ユニークな観点で選ばれ、解説さ
れていた。「科学者の部屋」のページには、科学者に
本との付き合い方やおすすめの本を尋ねたインタ
ビューが掲載されていた。インタビューとライブラ
リーカフェというように形態こそ異なるが、科学・技
術の専門家がどのような本をどのように読んできた
のかという問いには共通点が見出された。

2. 3. 2. 4 コーナーの運用

実施の手続きは、科学道 100 冊委員会と趣旨や方
法について確認し、図書委員会や学内関係部署の賛
同を得た上で進めた^{注3)}。図書館特設コーナーへの本
の展示は図書館がすでに所蔵していた本から着手し、
本校の学生が特に興味を持ちそうな分野の本を優先
しながら収集し、徐々に展示棚に加えていった。

本取組は、フェアに正式に参加する形で運営する
ことができた。参加自体を目標としていたわけでは
なかったが、参加のための条件は早い段階で満たす
ことができたため、科学道 100 冊委員会に参加を申
請することとした。参加が正式に認められたこと
により、大小の掲示用パネルやしおりなど数種類の図
書館展示用品（「科学道 100 冊」棚展開ツール）の提
供を受けることができ、展示に活用した。また、上
述の『科学道 100 冊：「知りたい！」が未来をつくる』
というブックレットが 50 冊提供された。48 ページ
からなるフルカラーの小冊子である。「科学道 100
冊」展示コーナーに本とともに配置し、希望者に自
由に受け取ってもらった。図書館ツアーへの参加者
は例外なくこのブックレットを受け取っていた。

講師の講話の内容と直接関係する本も 100 冊の中
には含まれており、ライブラリーカフェを下支えす
る企画展示となった。



図2 「科学道 100 冊」展示コーナー

2. 3. 3 読書コンクール表彰式の開催と作品の 展示

今年度の初の試みとして、ライブラリーカフェに
続けて読書コンクール表彰式を開催し、受賞作品を
展示した。

読書コンクールは、名取キャンパス図書委員会が
実施する校内行事である。学内外の多くの観客の前
で学生を表彰し、激励することと、学生のライブラ
リーカフェへの関心を高めることの 2 点を意図した。

実際の状況は以下のとおりである。表彰式は、ラ
イブラリーカフェの会場において、第 2 日目のライ
ブラリーカフェの終了後、休憩をはさんで 12 時 15
分より実施した。受賞学生は校長先生から賞状と副
賞を授与され、祝いのことばを頂いた。

また、読書コンクールコーナーをライブラリーカ
フェ会場前の 1 階エントランスホールに設けた^{注4)}。
学生の許可を得て読書コンクール応募作品を掲示し、
併せて作品が扱っている本を展示した。コンクール
にはポップ部門、レビュー部門、読破王の 3 部門を
設けており、作品応募型であるポップ部門とレビ
ュー部門の作品を展示した。読書コンクールの作品
を図書館に展示する初の試みとなった。前年度まで
のコンクールの作品は感想文形式であったため、作品
の公開は図書館のウェブサイト上で行っていた。



図3 読書コンクールコーナー

表彰式をライブラリーカフェに続けて実施するこ
とで、意図していた前述の 2 点は実現した。第一に、
表彰式を教職員や学生などの立会いのもとに執り行
い、作品を鑑賞してもらうことができた。前年度ま
での表彰式は通常授業日の放課後や昼休み時間に会
議室等で開催していたため、関係者に案内を出して
はいても、多くの関係者の立会いを得ることは難し
い状況にあった。また、第二の点についても、表彰
式関係者やその友人たちが早めに来場し、ライブラ

リーカフェに関心を寄せる状況が見られた。

一方で、ライブラリーカフェに参加した学外者は、多くが表彰式の開始を待たずに退席したようであった。また、ライブラリーカフェの終了後すぐに次の行事の準備が始まったのを目にして参加者はアンケートの記入を急いでしまったようで、自由記述の量が前年度より減る結果となった。今後の検討事項としたい。

2. 3. 4 地元中学校と本校保護者への案内

開催前広報活動の強化の一環として、学外への周知範囲を拡大した。案内ポスター掲示とちらし配布の状況は表1のとおりであり、新規追加は名取市内と近隣の中学校へのポスターとちらしの郵送による案内（項目7）、高専祭2週間前の10月14日（土）に実施された保護者懇談会での資料の配付（項目8）、および昨年の参加者のうち次回開催の案内を希望した方への案内（項目9）である。

平成29年度はちらし印刷の一部を新たに外注とした。ポスターとちらしを合わせた準備枚数は約2,700枚である。

また、学外向け行事として、学校の広報にも含めてもらえるよう、関係書類を学内の担当部署である企画室にも提出した。

なお、前年度に実施した案内方法は基本的には踏襲している。図書館ウェブサイトと本校ホームページにおける案内、地元名取市の広報誌『広報なとり』³⁾への案内記事の掲載などである。ただし、図書館ウェブサイトにおける参加登録受付、高専祭実行委員会が当日受付で配付する冊子への記事の掲載と、実行委員会への市内配布依頼は、対象の重複等を考慮し取りやめとしている。

表1 案内ポスター掲示・ちらし配布

周知場所	方法
1) 高専祭総合受付デスク	当日配付 ^{a)}
2) 図書館内	掲示・配布
3) 校内	掲示・配布
4) 名取駅	持込による掲示・配布 依頼
5) 名取市役所	持込による掲示・配布 依頼
6) 名取市図書館	持込による掲示・配布 依頼

7) 名取市内の中学校（5校） と近隣の中学校（7校）	郵送による掲示・配布 依頼
8) 保護者懇談会 ^{b)}	配付
9) 昨年のライブラリーカフェへの参加者 ^{c)}	郵送による配付

- a) この項目のみ当日の配付であり、他は事前周知である。
b) 名取キャンパス図書館だよりとライブラリーカフェ案内ちらしを1枚にまとめたものを配付している。
c) 開催案内の受取を希望した参加者を対象としている。

3. 実施を振り返って

平成29年度のライブラリーカフェは、行事開催のために校長裁量経費の配分を申請した。

実施に際しては可能な限り省力化を念頭においた。実施担当者の数は、学内組織の変更に伴う委員数の減少により、教員が2人減の5人となったためであるが、本行事を定着させ、今後の継続実施を推進するためにも省力化は重要であると考えられる。なお、前年度は初の開催であったため準備に相当の時間を必要としたが、その時間は大きく削減することができた。準備開始の時点で学内の理解が得られており、開始前に所要時間を見積もることも可能であり、かつ準備項目を見直したためと考える。

実施状況は、図書館内のライブラリーカフェ特設コーナーで紹介するとともに、『仙台高専だより』⁴⁾や図書館ウェブサイトで報告した。

以下には、参加者対象アンケート^{注5)}の結果を示す。各回の終了後に実施し、25枚を回収した。

参加者アンケート（第1日目・第2日目）

1) 所属について	
本学学生	3
本学教職員	7
学外	15
学外者の内訳は保護者6名、一般5名、中学生1名、その他2名、無回答1名である。	
2) ライブラリーカフェの内容について	
とてもよかった	16
よかった	8
普通	0
あまりよくなかった	0
よくなかった	0
その他	1

3) 開催時期や場所について		
時 期	よい 24, わからない	1
時間帯	よい 24, わからない	1
長 さ	よい 20, 改善してほしい	5
場 所	よい 23, 改善してほしい	1
	無回答	1

前回と同様に、2の内容と3の開催条件はよいという回答が多数であった。長さに関する要望は、「もっと長く」3件、「短い」1件、「2部構成に」1件であった。場所を改善してほしいという回答には「わかりづらい」という記述があった。

4) ライブラリーカフェ開催情報の入手先について		
『広報なとり』10月1日号		4
仙台高専ホームページ		1
図書館ホームページ		2
ポスター・ちらし		7
高専祭受付で配布していたちらし		4
知人・友人の紹介		7
昨年の参加者への案内		0
その他		2

「その他」には保護者懇談会資料という回答が1名から寄せられた。情報源は多様であり、今後の開催においてもさまざまな方法で周知を図っていく必要があることがわかった。

5) 今後のライブラリーカフェへの参加について		
ぜひ参加したい		7
参加したい		15
どちらともいえない		1
あまり参加したくない		0
参加したくない		0
その他（講演者による）		1
無回答		1

6) ライブラリーカフェで取り上げてほしいテーマについて	
自由記述は1件であり、「本に関係しないことでも面白ければ何でも」というものであった。	

7) 意見と感想
自由記述は以下のとおりであった。「もっと議論できた方が楽しくないか」「水銀の話がおもしろかった」「面白かったです」「高専祭ではライブラリーカフェ（だけ）を楽しみにしています」「自分の趣味について話すのはいいなと思いました（先生も楽しそ

うで）」「もう少し周知に力を入れたら席が埋まると思います」「プロジェクタが見づらい」「発見が遅れて30分程度しか拝聴できなかった」
講師の話が高い評価を得ている。改善希望があった項目については次回開催時の検討項目としたい。

4. 今後のあり方について

次年度に向けて検討したい事項は以下のとおりである。

第一はさらなる参加型のライブラリーカフェの実現である。検討段階で出された多様なアイデアを今後ひとつずつ実現させ、より楽しめる形態を検討したい。

第二に、ライブラリーカフェの対象者やニーズにふさわしい開催形態や広報のあり方である。アンケート結果の検討等が必要となる。

第三は学内の他組織や地域との連携のあり方についての検討である。一例として中学生への発信を目標とする場合には、本校の他の行事との連携等が重要となってくると思われる。

ライブラリーカフェを通算で4回実施することができ、開催を楽しみにしてくれる参加者が得られたのは、本校が、興味深い話をしていただける先生に恵まれているからに他ならない。図書館として、本校が学生や学外へ発信するしくみの一端を提供する努力を続けていきたいと考える。

謝辞

平成 29 年度もライブラリーカフェの開催に際しては多くの方々のお力添えをいただきました。講師の永弘進一郎先生と熊谷 進先生には興味深いお話をいただきました。学内では福村裕史校長先生、内海康雄副校長先生、学生課、企画室、次世代型教育推進室、高専祭実行委員会学生委員、その他多くの方の協力をいただきました。学外からは名取市総務課、名取市図書館、地域のみなさまにご協力をいただきました。また、本校学生、教職員、地域の方々に参加していただきました。みなさまに心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 岡崎久美子, 武田光博, 奥村真彦, 野角光治, 吉野裕貴, 宮崎義久, 谷垣美保, 山木幸一, 加藤文樹, 尾田陽子, 遊佐梨江: 仙台高専なとりライブラリーカフェの

開催, 仙台高等専門学校名取キャンパス研究紀要, 第 53 号, pp. 17-22 (2017)

- 2) 科学道 100 冊委員会: 科学道 100 冊: 「知りたい!」が未来をつくる, 48p. (2016) <https://kagakudo100.jp/>
- 3) 名取市総務部総務課: 広報なとり, 2017 年 10 月 (No.1027), p. 32 (2017) <https://www.city.natori.miyagi.jp/content/download/41980/261349/file/kouhounatori-2017-10-01.pdf>
- 4) 仙台高等専門学校: 仙台高専だより, 第 5 号, p. 17 (2017) <http://www.sendai-nct.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2018/03/dayori05.pdf>

注記

注 1) 名取キャンパス図書館は, 平成 26 年度より, 通常時もふたつき飲み物の摂取を館内全域で許可している。

注 2) 本校名取キャンパスは「科学道 100 冊」参加学校として「科学道 100 冊」ウェブサイトに掲載されている。フェアに参加している図書館は公共図書館や高等学校・大学の図書館が多く, 高専では本校名取キャンパス図書館が唯一である (2018 年 1 月 10 日参照)。

注 3) 学内では本取組への理解が得られ, 「科学道 100 冊」の後続版である「科学道 100 冊ジュニア」も全巻を揃え, 本校が実施している小中学生を対象としたプロジェクト等で活用することが計画された。

注 4) ライブラリーカフェの時期に実施していた企画コーナーは以下のとおりである。それぞれ定期的に入れ替えを行い, 運用を継続している。

- 1) ライブラリーカフェ特設コーナー (グループ学習スペースに設置) (本稿 2. 3. 2 参照)
- 2) 常設の企画展示コーナー (エントランスホールに設置)
 - (1) ブックハンティング図書コーナー: 図書委員会主催行事であるブックハンティングで本校の学生が選んだ本を展示・貸出している。ライブラリーカフェの時期は平成 29 年度第 1 回ブックハンティングで購入した本を展示していた。
 - (2) 授業参考図書コーナー: シラバス参考図書と教員が推薦する本を展示・貸出している。
 - (3) コース別おすすめ本コーナー: 本校の 1 学年の学生が 2 学年進級時に行うコースの選択に役立つ本を展示・貸出している。オープンキャンパスで来校する中学生には, 入学後の勉強内容がイメージできるような展示となっている。
 - (4) 特集コーナー: 図書館が薦める本を展示・貸出している。読書コンクールコーナー (本稿 2. 3. 3) はこのコーナーのひとつとして展開した。

注 5) 資料 アンケート設問 (第 1 回用・第 2 回用)
平成 29 年度 仙台高専なとりライブラリーカフェ
アンケート

本日は仙台高専なとりライブラリーカフェにご参加下さいまして誠にありがとうございました。今後の参考とさせていただきますので, 以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

- 1) ご所属について

<input type="checkbox"/> 本学学生 (学年・クラス: _____)	
<input type="checkbox"/> 本学教職員 (学科・コース: _____)	
<input type="checkbox"/> 学外 (保護者・一般・大学生・高校生・中学生・その他)	
- 2) カフェの内容はいかがでしたか?

<input type="checkbox"/> とてもよかった
<input type="checkbox"/> よかった
<input type="checkbox"/> 普通
<input type="checkbox"/> あまりよくなかった
<input type="checkbox"/> よくなかった
- 3) 開催時期や場所はいかがでしたか? 改善した方がよいと思われる項目は詳しくお書き下さい。

時 期	<input type="checkbox"/> よい	<input type="checkbox"/> 改善してほしい (_____)
時間帯	<input type="checkbox"/> よい	<input type="checkbox"/> 改善してほしい (_____)
長 さ	<input type="checkbox"/> よい	<input type="checkbox"/> 改善してほしい (_____)
場 所	<input type="checkbox"/> よい	<input type="checkbox"/> 改善してほしい (_____)
その他	(_____)	
- 4) 今回のカフェを何でお知りになりましたか?

<input type="checkbox"/> 広報なとり 10 月 1 日号
<input type="checkbox"/> 仙台高専ホームページ
<input type="checkbox"/> 図書館ホームページ
<input type="checkbox"/> ポスター
<input type="checkbox"/> 高専祭受付で配布していたちらし
<input type="checkbox"/> 知人・友人の紹介
<input type="checkbox"/> 昨年の参加者への案内
<input type="checkbox"/> その他 (_____)
- 5) 今後もカフェが開催された場合, 参加したいと思いますか?

<input type="checkbox"/> ぜひ参加したい
<input type="checkbox"/> 参加したい
<input type="checkbox"/> どちらともいえない
<input type="checkbox"/> あまり参加したくない
<input type="checkbox"/> 参加したくない

※次回カフェが開催された場合, 案内をご希望の方はご氏名・ご住所をお書き下さい。記入された個人情報厳重に管理し, 目的外に使用いたしません。

氏名: _____ 住所: _____
- 6) 今後, カフェで取り上げてほしいテーマがありました

岡崎久美子, 濱西 伸治, 野角 光治, 柳生 穂高, 吉野 裕貴,
荒 孝二, 坂本 香代, 佐々木敦子, 遊佐 梨江

からお書き下さい。

7) ご意見や感想がありましたら, ご自由にお書き下さい。

※アンケートの結果は個人が特定されないよう, 集計された形で公表することがあります。
ご協力ありがとうございました。